



雲の上にはいつも...



【No.11】藤城小学校 校長室より（不定期刊）



とうとつ

唐突な話だがお許し願いたい。令和になって間もないゴールデンウィークの頃だったろうか、妻に叱られた。

まあ、これは「叱られた」というよりも「たしなめられた」と言った方が正確かもしれない。

残念なことに私は若い頃から「お調子者」の一面を持ちあわせている。この特性のせいで、今までに何度も「ごめんなさい」を口にする事となったが、このときもそうだった。人通りの多い横断歩道を渡っているとき、非常に個性的な衣装を着た女性がこちらに向かって歩いてくのではないか。（私にとってそれは「服」ではなく「衣装！」としか思えなかった）妻と歩き、心弾（こころはず）んでいたのか、つい私は調子にのって「ちょっと見て！あの人、変な服！」と語りかけた。「えっ！何言ってるの。いいと思って着てはるんやで！」と妻。争いごとが嫌（きら）いな私は、すぐに「あっ、はい…」と口をつぐむ。でも心の中では「せやけど、あの格好（かっこう）はホンマ変やろ！」と続けていた。



みんな 自分の「ものさし」で ものごとを とらえている



数日後、とあることに気づいた。（決して何日間も思い悩んでいたわけではない！）私には「変だ！」としか感じられなかった服装だが、妻が言うように当人は「格好いい！」と思って着ていたはずだ。つまり、「目立つ変な服」と「目立つ格好いい服」は同じ服だということ。そんなこと、あたりまえじゃないか。人によって感じ方が違うんだからと、みなさんおっしゃるだろう。私が引っかけたのは、相手に「変だよ」という同意を求めてしまったこと。人それぞれ感じ方は違う。同じ器に入ったラーメンでも、「大きい！」と感じる人もいれば、「小さいなあ」と感じる人もいるのと同じことだ。みんな自分の「ものさし」で判断している。他人とは違う、自分だけの「ものさし」で...



それなのに、私たちは多くの場合、自分の「ものさし」だけが正しいと思い込み、決めつけたり、他人に同意を求めたり、あるいは強要（きょうよう）したりしてはいないだろうか。さすがにラーメンの大きさを測るものさしの違いで大事には至らぬだろうが、人に関わるものさしの違いは、ときに取り返しのつかない悲劇を生む可能性がある。例えば「〇〇さんみたいに口の悪い人は、子どもにもひどいことしてるはずや」というように、他者を否定するような場合。これは「口の悪い人は行いも悪い。子どもにも暴力をふるう」といった、『まちがったものさし』から始まっている。多少口が悪くても、愛情深い人は世間にごまんという。



他者とつながることで、自分の「ものさし」は 多様で豊かになる

では『まちがったものさし』はどうすれば防げるのだろうか。「今、自分のものさしだけで考えている」と自覚することはもちろんだが、大切なことは多くの人とつながり対話することで得られる「他者のものさし」ではなかろうか。他者とつながることで、今までの自分の「ものさし」は揺さぶられ、「他者のものさし」を含めた、より豊かなものになっていく。多様性に満ちた豊かな未来に生きる子どもたちにこそ、そんな「ものさし」が必要だろう。限られた地球という環境の中で、他者と支え合い幸せに生きるための必須条件だ。いや、子どもだけじゃない。いい大人の私にだってそんな「ものさし」が必要だ。だって、「ごめんなさい」の回数が減るかもしれないんだから。



無関心には なれても、無関係には なれないもの

あと10日ほどで夏休みを迎えます。直前には参議院選挙。「政治は無関心にはなれても、無関係にはなれない」という言葉があります。大人がしっかり考え、投票する姿をわが子に見せましょう。

また、夏休みには「いのち」について考えるきっかけとなる日が多くあります。8月6日、8月9日、そして戦争が終結した8月15日（沖縄では6月23日の慰霊の日がそれにあたりました）。ぜひ、多くのものに触れる夏休みになることを願っています。「いのちのつながり」も無関係ではられません。もちろん、安全と健康は最優先です。



Überall lernt man nur von dem, den man liebt. (Johann Wolfgang von Goethe)

「人は自分が愛する人からのみ学ぶものである」(ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ)

これはドイツの詩人ゲーテの言葉。たぶん、これは事実です。愛情いっぱい育てられ、親を愛している子どもは、自分の周りの人すべてに対する愛情深い接し方を親から学び、これを生涯持ち続けるといいます。いずれ親以外の誰かを愛するようになるでしょうが、小学生の今は、親こそが一番なのです。

